

No.132

2000.  
12.28

# 岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111  
振替名古屋637909

## 「最先端と伝統の融合」

オークヴィレッジ代表 稲本正



「もう博物館入りだね」と言われると、それはもはや現在の生活や文化とは縁遠い物事になった証拠である。このように「博物館」という言葉にはどうも、時代の最先端から離れてしまっているという

イメージが付きまといがちである。

他方、「博物館」には、「何か知らない秘密がいっぱい隠されている」という、ワクワクするような好奇心を刺激する要素もある。そして、「温故知新」という言葉があるように、昔の人が使った道具、生活様式、また古人の科学的、芸術的側面が加味された数々の作品を見ると、現代人と接する以上に、多くのことを学ぶことができたりする。私はイギリスに渡った時、大英博物館や自然史博物館、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館などを訪れ、また岐阜県と提携しているウェールズ博物館も見学させてもらったが、好奇心を十二分に満足させることができた。それらはどれも広い広い敷地に有り余る收藏品の中からテーマに合うものを厳選し、異国から来た人にも解りやすく、工夫を凝らして展示してあったからだ。特にウェールズのカーディフの丘の上にある博物館は、古いお城を改造し、年代ごとの建物を移築し、その年代の家具が置いてあり、その年代に詳しい学芸員がインタープリテーションをしてくれた。また、昔ながらの工法で木工品を造る職人もいたり、昔ながらの料理を食べさせる食堂もあった。

21世紀は環境の世紀とも言われているので、環境との関係で博物館を考え直そうという試

みも、世界各地で行われている。私は「エコミュージアム研究会」と関係しているので、そちらの方の情報などもベースにしてオークヴィレッジ内で「森の博物館」を創設してみた。この博物館の特長は、日本人が古来から使ってきた代表的な木でできた工芸品を展示する室内展示場があると同時に、ネイチャートレイル（遊歩道）のまわりに屋内展示のテーマになった木が実際に育っている様子が見える、というところにある。

「博物館も時代の最先端と融合すべきだ」という考えが、最近沸き上がってきている。人類の文明が、もはや「完全なる危機」に直面しつつあり、21世紀の前半に何らかの解決策を見つけ出さなければならない状況にあることを考慮すれば、博物館が単に過去の遺品を展示するにとどまってはいけない。オークヴィレッジでは、パイオニア株式会社と試作を重ね、ウスキーの構材を使うことにより最高品質のスピーカーを開発することに成功した。これは、エレクトロニクス技術という最先端と伝統工芸という古代からの技法を融合させたことにより達成できたものである。現代の生活文化と過去のそれをもう一度繋ぎ直し、展示することも、博物館の重要なテーマである。

その意味で「飛騨・世界生活文化センター」の来年夏のオープンに期待したい。また、岐阜駅にある「ワールドデザインシティ・GIFU (アクティブG)」もある意味では新しい博物館で、オークヴィレッジも出店し、「最先端と伝統の繋ぎ方」の一つの方法をプレゼンテーションしているが、皆さんの御批評を得たいと思っている。

## 「第25回東海三県博物館協会交流研修会に参加して」

日時：平成12年10月31日(火)～11月1日(水)

会場：岐阜市 スポーツプラザ

参加：51名

本年度は岐阜県が担当で、岐阜県からは21名、三重県から15名、愛知県から15名の参加があった。日程は以下のとおりである。

第1日目 10月31日 13:30～20:00

- ・記念講演「激動・変革時代の生き方—織田信長そして古田織部—」  
岐阜女子大学 丸山幸太郎氏
- ・事例発表「21世紀を考える博物館…」  
「斎宮歴史博物館の展示リニューアルについて」  
斎宮歴史博物館学芸員 榎村寛之氏  
「海外交流展のあり方について」  
名古屋博物館学芸課長 井上光夫氏  
「街角博物館・美術館の試み」  
小川記念館館長 小川郁子氏
- ・懇親会

第2日目 11月1日 9:00～13:00

- ・博物館見学  
岐阜市歴史博物館、名和昆虫博物館、岐阜城



講演要旨 「激動・変革の時代の生き方—織田信長と古田織部—」

中世から近世への激動期に信長や織部が現れた。信長は戦乱のない国家造りという時代の要請に応じてそれをほぼ成し遂げた。彼は家柄でなく生きて働く能力を大事にし、衆市の承認、検地に基づく徴税、観光鶉飼の基となる接待鶉飼や南蛮文化の導入、宗教の政治介入禁止等々の功績を修めた。織部は千利休の愛弟子で、信長、秀吉、家康に仕え、ダイナミックで多様な形の茶碗、モダンで日本の自然を題材にした花器・茶器・壺、明るく柔軟性のある茶室など、利休とは異なる独特の世界を創っていった。21世紀を前に今、自然の摂理を重んじ、多様な価値観を認める柔軟

さをもつ織部が再評価されている。

### 事例発表要旨

#### ○「斎宮歴史博物館の展示リニューアル」

今回のリニューアルの要点は、双方向性と所要時間である。10分に出ていく人にも分かる展示、半日いてもあきない展示に心がけ、コーナーパネルの字数は1枚あたり250字以下に減らし、それ以上の詳しい解説が必要な人には解説リーフレットを用意することで、より深い興味を喚起できるようにするなど来館者の関心の度合いによって理解の深まる奥深さのある展示を心がけた。

#### ○「海外交流展のあり方について」

海外交流展を行うメリットは、

- ①他館と共催による経費削減
- ②住民が地元で海外の資料を見られる
- ③学芸員が実物に触れる機会ができる

である。予算面の厳しい時勢なので、予算規模が同等の館が集まって海外展を自主的に企画していくことが大切である。学芸員のやる気とアイデアでより良い道が開けてくる。

#### ○「街角美術館・博物館の試み」

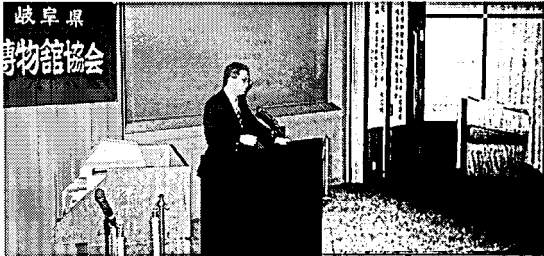
明智町に美術館を開いて10年になるが、一人旅の青年や毎年夏になると来る男性などいろいろな人との触れ合いがある。一番大事なことはお客さんの満足である。個人経営の美術館なので、管理運営に向け、広報や美術館・博物館のビジョンについて聴ける機会、資料の収集・展示・保管の方法（特に劣化対策）等の指導など行政の支援をお願いしたい。



翌日の見学風景（岐阜市歴史博物館にて）  
（事務局）

### 第85回岐阜県博物館協会公開講座報告

演題：「万国博覧会の華 七宝焼」  
期日：平成12年7月30日 13:30～15:00  
場所：岐阜県博物館  
講師：名古屋市博物館学芸員 小川幹生氏  
参加：88名



名古屋市博物館学芸員の小川幹生氏を講師に招いて、第85回公開講座が岐阜県博物館で開催中の特別展「海を越えた明治～ヨーロッパが愛した焼き物の美～」の特別展講演会を兼ねて開催されました。

講座は、日本の七宝の技法（象嵌七宝、有線七宝、琺瑯）の解説から始まり、初心者にもわかりやすく、有意義なものでした。続いて、日本の七宝史、特に近代七宝について説明がありました。特に欧米諸国で開催された万国博覧会と日本の近代七宝の関係や富国強兵、殖産興業という国策の中での七宝の発展についての話は大変興味深いものでした。

明治から大正にかけて発展した近代七宝は、作られた作品が海外に輸出され、ほとんど日本に戻ってくることはなかったといえます。日本では必要以上に軽く見られ、本格的な研究が始まったのも最近で、日本にはほとんど実物資料がないなど研究の苦勞についても話がありました。また、これから近代七宝の研究をはじめたいという方へアドバイスとして、①愛知県の地場産業、②日本の七宝史における近代七宝の位置、③世界の七宝史における日本近代七宝の意味という3つの観点を挙げられました。

最後に、今まで解説されたさまざまな七宝について再度、スライドを使いながら振り返りました。林小伝治、梶佐太郎、川口文左衛門、涛川惣助、並河靖之などの作品が紹介されると、その華美な意匠に参加者からも感嘆の声が聞かれました。

(岐阜県博物館 説田健一)

### 第86回岐阜県博物館協会公開講座報告

演題：「高山町人のなりたち」  
期日：平成12年10月29日(日) 13:00～15:00  
場所：高山市郷土館  
講師：高山市教育委員会文化財保護課 田中彰氏  
参加：37名



当会第86回公開講座は、高山市郷土館において開催された特別展「高山町人のなりたち」にリンクするかたちで行われました。

「高山町人のなりたち」は「1ルーツ」、「2形成期」、「3発展期」、「4近代化の中で」、という構成で展示されており、講座もこれに沿うかたちで展開しました。

天正13年(1585)豊臣秀吉の命を受け、飛騨を平定した金森長近は、城下町高山の建設に着手しました。そして金森時代、商人町の配置や街道等交通網の整備などの経済政策に呼応し、商人町が成長していきました。元禄5年(1692)幕府直轄地時代にはいると、高山は飛騨の中心となってさらに商業が栄え、町人文化の成熟期を迎えました。そして明治維新後、殖産興業の波とともに高山の産業も近代化への道を歩みました。



まず、田中氏により概要が説明された後、特別展会場で実際に資料を見ながら詳細な解説がなされました。元禄年間の高山地図、近江商人西川家家訓、町年寄日記など具体的な資料を目の前にわかりやすい解説が加わり、多くの参加者が熱心に見入っていました。

(飛騨民俗村 岩田 崇)

## めずらしショールーム岩崎

〒501-4224 郡上八幡町城南町250

岩崎模型製造(株)内

TEL 0575-65-2832

FAX 0575-65-2947

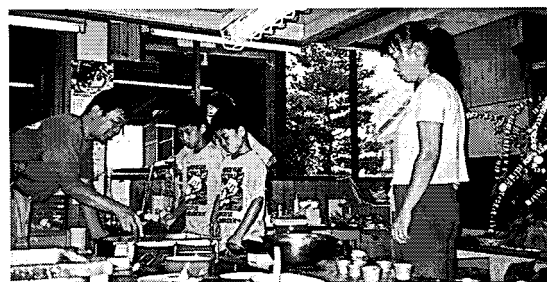


私共の本業は食品サンプル製造、販売ということで、百貨店とか食堂前のウィンドウに飾られている食品模型を作り、全国各地に点在されているグループ各店に出荷しております。

この食品模型の研究をし商品として企業化に成功した、いわゆるその創始者である岩崎瀧三（明治38年郡上八幡本町にて次男として出生、昭和40年没、現在その胸像が会社の庭に立てられている）は明治43年、大阪にある菓種貿易商に奉公、ローソクからたれ落ちた滴をヒントに研究の末、サンプル作りに成功、昭和7年岩崎製作所を創立、「全国に店を作る」を夢にそれを実現、ふるさと郡上八幡にも同30年工場を開設しました。現在は岩崎模型製造(株)として活躍中、この模型作りは大変珍しがられ、見学申込みも多かったことから、何とか岩崎歴史館をグループの一員として作りたい念願にかられましたが、なかなか思うように事は進まず、景気低迷を機に、社員力を結集して手作り展示見学場をなんとか完成させ、平成11年春にオープン、やっとお客様の希望を叶えさせていただくことになりました。

展示場には、全国グループより集めました面白みのあるサンプルの数々、中には芸術品ともいわれる様な作品、また博物館よりの依頼により作られる生魚の立体魚拓（リーロツ

クとも呼んでいる）等、他ではなかなか直に見ることのできない、遊び心をくすぐる作品の数々が展示されています。こういった品が欲しくてもなかなか手に入れることができないことから、製造元ゆえにできる格安な値段で一部販売もしております。今人気の口ウ細工による体験もでき、小さな子供から老若男女にかかわらず、天ぶらを作ったりレタスを作ったり童心に返って楽しんでみえる姿を眼にし喜んでいる次第です。外国の人たちの喜びの姿は特に印象に残ります。



反面、残念に思いますことは、兼業ゆえ工場建物の一部の利用とあって、土日祝祭日のほとんどは休みが多く、観光的には不備な点が多く素朴そのもので団体見学の場合多くないトイレ等に困られることもあり、お許し願わねばならぬ点もあり全く残念なところです。環境としましては、八幡の要ともいえる、一番大きな交差点の近くだけに分かり易いのですが、逆に通りすぎてしまう欠点もあります。大型バスも入れる駐車場があることは大きなプラスとなっていますし、100mと離れていない所に郡上八幡民芸美術館もあります。体験の場合は要予約ですが、ぜひ一度気軽にお越し下さい。

【交通】郡上八幡ICより車で岐阜方面約1分  
郡上八幡駅より徒歩で約5分

【開館受付】9時30分～15時

【休館】土、日、祝祭日

【入館料】大人350円、子供300円（お土産付き）

【体験料】千円より（作品持ち帰り）要予約

（岩崎模型製造 恩田道夫）